



慶應義塾大学ビジネス・スクール

すみだトリフォニーホール

すみだトリフォニーホール（以下STH）事業課長N氏は、STH事業課の窓から見える隅田川に映る秋の夕日を眺めていた。

5

STHは、アーティスト、聴衆、ホールの3つの調和（ラテン語でトリフォニー）を目指して、1997年10月に東京都墨田区錦糸町駅前にオープンした墨田区所有の公共ホールである。

N氏はSTHのオープン以来、ホールの知名度アップ、トリフォニー・ブランド=トリフォニーラしさの追求を目標として事業課を運営してきた。

STHはクラシック・ファンの間では知名度をあげ、STH事業課で企画する自主事業コンサートは聴衆、評論家から高い評価を得るようになってきていた。

10

最近N氏は、オープン当初に考えていた目標は達成されてきたように感じている。オープン4年目を迎える2000年の秋、21世紀に向けたSTHの事業戦略を策定しなければという想いが、N氏の心の中で芽生えつつあった。また、N氏にはSTHの運営における越えがたい問題点があることも分かっていた。

15

墨田区とすみだトリフォニーホール（STH）

墨田区の概要

墨田区は、東京都心の東部にある人口22万人、面積は13.75km²、年間予算は約970億円の区である。地域性としては、「東京とはいえ、江戸の職人気質が残るものづくりの町」で、今もなお下町情緒が残っている。

20

墨田区の中心地であるJR錦糸町駅までは、電車でそれぞれ、東京駅から9分、新宿駅からは17分、大手町・銀座駅、上野駅からは10分となっている。墨田区と都心部へのアクセスはかなりよいといえる（付属資料1）。

25

本ケースは、慶應義塾大学平成11年度大型研究助成プロジェクトの一環で、教材として作成されたものであり、経営管理上の巧拙を例示しようとするものではない。本ケースの作成は、同プロジェクトのメンバーである和田充夫（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授）と美山良夫（慶應義塾大学文学部教授）の監修のもと、同じくメンバーである太田幸治（明治学院大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程）が行なった。また本ケース作成にあたり、すみだトリフォニーホール、新日本フィルハーモニー交響楽団より多大なるご協力を頂いた。ここに改めて、感謝の意を表わす。いうまでもないが、本ケースの記述内容の適否についてはケース作成者が責を負うものである。なお、このケースに示された個々のデータは一部偽装されている。（2000年10月作成）

30